

SDGs未来都市

地域力で実現する 持続可能なまちづくり

市制

人口5万人の
基盤づくり

共生

地域力を高める
取り組み

霞ヶ浦

“泳げる霞ヶ浦”
を発信



茨城県 阿見町



阿見町が2024年度「SDGs未来都市」に選定

- 内閣府で2018年度から2024年度の間に「SDGs未来都市」「自治体SDGsモデル事業」を選定。
- 2024年度、阿見町がSDGs未来都市に選定された。
- 県内ではつくば市、境町に次いで3都市目※。

※2024年度、阿見町と古河市が同時に選定



1. SDGs未来都市

2030年に向け未来都市としてSDGsを推進するための全体計画



2.自治体SDGsモデル事業

自治体SDGsのモデルとなる3年間の具体的な事業計画

阿見町のSDGs未来都市提案書

タイトル「**地域力で実現する持続可能なまちづくり**」

「持続可能なまちづくり」を目指す前提として、まずは「人口を維持すること」、そして多様化する地域の課題に対して、行政が全て解決しようとするのではなく、町民自らがまちづくりの担い手となり、**自分たちの地域のことは自分たちで解決**するまちを目指している。



2030年に向けた三側面の取組

地域力で実現する持続可能なまちづくり

3

環境

町民が主役 で実践



- 1 全町民で取り組む「ごみの減量化」と「食品ロス対策」
- 2 町全体を挙げた「エコライフ」「エコドライブ」の推進

2

社会

町民の自発的 な活動を促す

- 1 地域づくり会議
- 2 町民討議会
- 3 高校生会
- 4 あみ未来塾
- 5 子ども食堂

1

経済

ハード面の 基盤を作る

- 1 つくば霞ヶ浦りんりんロードの整備
- 2 職住近接のコンパクトシティの推進



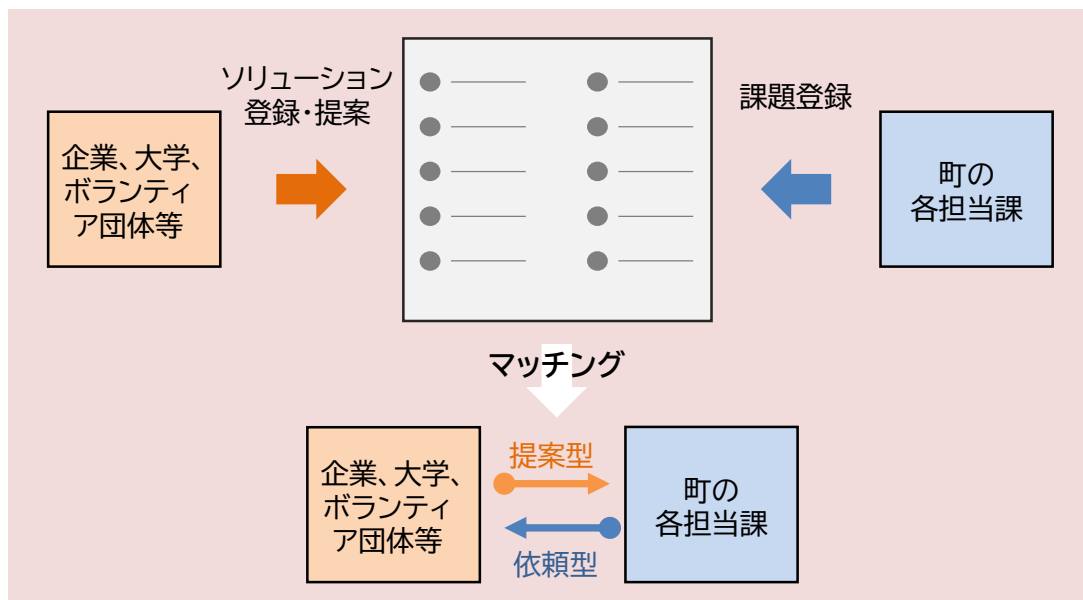
主な新しい取組

産学官民連携プラットフォームの構築

町内の企業や団体、大学との連携をより深めるため、産学官民が連携して町の課題解決に取り組むプラットフォームを構築。

- ・ 産学民はソリューションを登録
- ・ 官(町)は課題を登録

マッチング後、課題解決に向けて協議・検討



紙の資源ごみ化の徹底

阿見町は1日1人当たりのごみ排出量が県内でワースト4位(2021年度)。その中でも紙・布類の割合が44.4%を占める(過去3年間の平均)。

紙の資源化を全町民挙げて徹底。紙を「資源ごみ」として回収するための紙袋を全世帯に配布。



次の取り組みとの相乗効果により全町民でごみを減量

- 生ごみ処理容器等購入費補助金
- 子ども会リサイクル環境教育事業助成金
- 食材の使い切り、食べきり運動

「人口は増えてもごみは減らす」
を合言葉にごみの減量化を推進！

自治体SDGsモデル事業(不採択)

給食残渣の再資源化

方策

給食残渣の再資源化装置を設置し、残飯や野菜くずを再資源化、霞クリーンセンターに持ち込まれる可燃ごみを削減。

展開

野菜を納入している生産者に堆肥を提供
有機農業を促進し、そこで育った野菜を給食に活用＝環境に配慮した循環型システムを形成。

堆肥を町民に還元

家庭菜園での利用という形で身近なSDGsの取り組みを促進する。

堆肥を学校や保育所に配布

環境教育や食育に展開する。



メタバース版“泳げる霞ヶ浦” MyあみビーチVRの構築

方策

メタバースに阿見町公式の空間を構築し、スマホやVRゴーグルを使って「**2030泳げる霞ヶ浦**」を体験できる場所を実現する。

展開

未来の泳げる霞ヶ浦のビーチを構築するとともに、過去へのタイムスリップ体験、臨場感のあるミニゲームや3D映像(例：ゼロ戦の飛行体験、スカイダイビング、ウォータースライダーなど)を実装。

イベント会場を作り、町のイベントの第2会場として現実での参加が難しい町民の方(障害のある方、健康上の不安のある方など)でも参加しやすい会場として利用、誰一人取り残さない事業展開に活用。



今後の展開

1

ゼロカーボンシティ実現 に向けた具体的取組の加速

- 町施設の屋根に太陽光パネルを設置、再生可能エネルギーの産出を促進。
- 公用車への電気自動車(EV)の導入、公共施設におけるZEBの導入を進め、町民のCO2削減の取り組みを先導。

2

パートナーシップ制度

- 町内のCO2排出量は71%を製造業、11%を運輸業が占めており、「CO2排出量実質ゼロ」を実現するためには企業の取り組みが必須となる。
- SDGsに取り組む企業や団体を町が認証し、産学官民連携プラットフォームと併せて町全体を挙げてゼロカーボンシティの実現を目指す。

3

さらなる啓発活動

- オリジナルロゴマークの活用、庁内各課の案内板、懸垂幕などによるPR
- カードゲームによる地域の人材育成
- 広報あみやさわやかフェアによる啓発の継続